



## 交通システム研究部会

この部会は、交通問題をより広くシステムとして考えてゆこうとする OR 学会々員の有志により設立された（主査・矢部 真，幹事・富沢健一）。学会の会計年度にしたがって昭和 49 年 3 月より正式に発足したが、1 月と 2 月の 2 回にわたり発起人グループによる準備会がもたれた。

**第 1 回準備会** 1 月 31 日 会の運営方針，方法についての相談，各自自己紹介，各人が関心をもっているテーマを提出。「仏国における世帯所得別時間価値調査」—主査，配布資料「PPBS と OR」。

**第 2 回準備会** 2 月 21 日 各人関心のあるテーマ提出。「国分寺市・小金井市を中心とした新都市補助交通機関に関する試案」—（株）都市環境システム研究所長 馬場知己氏，質疑応答とコメント。

**第 1 回** 3 月 15 日 各自自己紹介。「交通システム部会の趣旨，運営方法」説明（別注）—主査，各人関心のあるテーマ提出。「首都高速道路における路線計画策定のプロセス」—首都高速道路公団 海老島敏彦氏，質疑応答。

**第 2 回** 4 月 19 日 これまで各人のテーマ提出を 3 回行なった。内容は多種類だが，一通り出尽した感じもするので，幹事がテーマ別に分類した試案を作成し配布した。これをさらにメンバーによって重点的に集約するよう依頼。「エネルギーより見た交通問題」—国鉄 鳥 隆氏，質疑応答。

**第 3 回** 5 月 17 日 「阪神高速道路における交通管制システム」—京都大学 長谷川利治氏，質疑応答。

**第 4 回** 6 月 21 日 —見学会— 「首都高速道路における交通管制システム」—首都高速道路公団交通管制センター。

**第 5 回** 7 月 19 日 「CVS について」—東京大学 井口雅一氏。

**第 6 回** 9 月 20 日（以下予定）「技術革新への挑戦」—日本航空 島 成嘉氏。

**第 7 回** 10 月 25 日 「国際会議（交通）に出席して」—京都大学 長谷川利治氏。

**第 8 回** 11 月 15 日 「交通需要予測と料金弾力性

等について」—日本道路公団 武田文夫氏，  
発足の趣旨

いままで交通機関別に考えられていた交通問題を総合的なシステムとして考えてゆく。とくに，今十分考えておかないと後世に悔いを残す問題点は何か？ メンバー一同のコンセンサスが得られるまで時間をかけて討議する。このためには 2 年間の期間のうち 1/3 くらいあててもよいであろう。コンセンサスが得られたら，その目標を実行可能でかつ合理的に達成する方法は何かが第 2 の問題である。どこまでやれるかは今予測はできない。なお，交通システム全体が対象である。

### 運営方針と運営方法

この部会は例外を除いて毎月第 3 金曜日，18:00—20:00，東洋経済新報社（日銀本店前）内の会議室で開いている（ただし，8 月，12 月は休会とし，また今年 10 月は学会の秋季大会と重なるので第 4 金曜日とした）。趣旨に沿って約半年間はテーマを各自発想し，フリー・トーキングによってコンセンサスが得られるテーマが発見できるよう努める。なおこの間，この目標を達成する一助として，興味のあるようなテーマについて適当な方に約 1 時間話をうかがい，あと 30 分間質疑応答を行なっている。質問，コメントはなかなか活発だが，午後 8 時には閉会する。学会々員なら誰でも参加できるが，希望者は幹事あてはがきで「住所，氏名，勤務先，連絡先」を記入のうえ，幹事あて申し込まれたい（申込先：〒150 東京都渋谷区広尾 1-3-14（株）ジャステック企画部 富沢健一）。

6 月現在，メンバーは 40 数名おり，毎回の出席者数は 20 名前後である。人数が多いためあって，開催通知は，日時・場所などに変更がある場合を除いて行なわない。また，幹事が議事録をまとめているが配布はしない。夕食はあっせんまで含めてサービスできない（同社 9 階に食堂あり，利用可）。学会活動は個人が基盤なので，これも自発的なものであり，一国民の立場からモノを考えてゆくことが望ましい。新参加者は初出席の際自己紹介がいるが，上記のはがきの内容のほかスペシャリティとして「出身学科」もつけ加えていただいている。